令和４(2022)年度　現地技術実証展示ほ　成果情報

# トルコギキョウの斑点病防除対策の確立


**要約**

トルコギキョウにおいて、斑点病防除薬剤「キルパー」を施用した結果、斑点病の発生状況は、１番花では発生率が１％以下であり、２番花では発生割合が高くなったものの、対照区（令和４年産）と比較して品種により発生割合が低くなったことにより、出荷量が増加した。殺菌剤の散布回数についても、対照区と比較して回数が４回少なくなったことから、キルパーによる防除効果は高いと考えられた。


## ○ 展示のねらい

トルコギキョウにおける「キルパー」の斑点病に対する防除効果を検証する。

１） 試験区概要

供試区：令和５年産（キルパー10a 当たり 60ℓ 散布）
６月 17 日にハウスを密閉し、上畝に設置されている潅水チューブからキルパー希釈液（約 100 倍）を潅水した。６月 24 日にハウスを開放した。

対照区：令和４年産

２）栽培概要

(1)作型　超促成栽培（定植日：８月 16 日～８月 25 日）

(2)地目　水田

(3)品種　マリッサブルー、レイナホワイト ver.3、ボヤージュ(2 型)グリーン、ボヤージュ(2 型)イエロー、クラリス(2 型)ライトピンク、マキアルージュ、アンバーダブルショコラ、マキアラベンダー、セレブミルキー

## ○ 主な成果

トルコギキョウの斑点病の発生状況は、１番花では 12 月 20 日時で品種により最大１％以下の発病率となり、ほぼ発生しなかった(データ省略)。２番花では４月上旬に斑点病の発生が確認され、４月中旬以降発病株数が増加した(表１)。栽培期間の後半になるにつれて発生割合が高くなったものの、対照区(令和４年産)と比較すると、発生程度は少なく、抑制することができたため出荷量が増加した(表２)。また、殺菌剤の薬剤散布回数は４回減少した。

表１　令和５年産２番花品種別斑点病発生割合（%）

| | 定植日 | 3月9日 | 4月7日 | 4月18日 | 5月2日 |
|---|---|---|---|---|---|
| マリッサブルー | 8月16日 | 0 | 1 | 1 | 17 |
| レイナホワイト | 8月17日 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| ボヤージュグリーン | 8月17日 | 0 | 3 | 19 | 38 |
| ボヤージュイエロー | 8月18日 | 0 | 6 | 21 | 26 |
| クラリスライトピンク | 8月20日 | 0 | 4 | 33 | 30 |
| マキアルージュ | 8月23日 | 0 | 4 | 67 | 58 |
| アンバーダブルショコラ | 8月23日 | 0 | 1 | 4 | 11 |
| マキアラベンダー | 8月23日 | 0 | 2 | 29 | 26 |
| セレブミルキー | 8月25日 | 0 | 6 | 29 | 42 |

表２　２番花の 10a 当たりの出荷量比較

| | | |
|---|---|---|
| 令和５年産 | 出荷量（本） | 12,026 |
| 令和４年産 | 出荷量（本） | 10,037 |
| 増減 | 出荷量（本） | 1,989 |
| | 割合 | 119.8% |

※２番花（４～５月）として集計

## ○ 今後の方向性

斑点病の発生するほ場で土壌消毒期間を考慮し、技術普及する。


実施機関 ： 安足農業振興事務所経営普及部　　実施場所 ： 足利市

問合せ先 ： 栃木県農政部経営技術課技術指導班　TEL 028-623-2322　FAX 028-623-2315